

大会名 Competition	秋田国体記念 第20回能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-102	Year Month Day Time 2007 年 5 月 3 日 13 : 40
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B
市立船橋高	(23 1st 19 9 2nd 18 12 3rd 19 15 4th 20 OT)	明成高
59 ●		76 ○

主審:Referee 渡邊 亮 (福島)
副審:Umpire 升屋 章 (秋田)
テーブル・オフィシャルズ:Table officials 能代工業

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4		神 佳 希	CAP	-	-	-	-	-	4	／	安 藤 雄 志	CAP	12	2	3	0	4
5	×	岩 井 俊 憲		9	3	0	0	3	5	×	小 野 大 貴		5	1	1	0	3
6		三 富 修 平		-	-	-	-	-	6	／	伊 藤 駿		14	0	7	0	4
7	×	遠 藤 祐 亮		16	2	3	4	4	7	／	岩 崎 翔 太		0	0	0	0	0
8	×	星 野 拓 海		26	5	1	9	0	8	／	我 妻 典 明		0	0	0	0	1
9	×	小 出 翼		6	0	3	0	1	9	×	佐 藤 琢		3	1	0	0	3
10	×	西 信 之		0	0	0	0	0	10	×	佐 藤 卓 哉		15	2	4	1	4
11	／	和 田 保 彦		2	0	1	0	0	11	／	菅 原 康 平		2	0	1	0	0
12		河 合 智 平		-	-	-	-	-	12		菊 地 大		-	-	-	-	-
13		常世田 政 明		-	-	-	-	-	13	×	石 川 海 斗		7	1	1	2	1
14		實 川 一 輝		-	-	-	-	-	14	×	中 川 真 雄		18	0	9	0	0
15		野 口 翔 志		-	-	-	-	-	15		宮 澤 耀 佑		-	-	-	-	-
16		會 田 一 歩		-	-	-	-	-	16	／	佐 藤 文 哉		0	0	0	0	0
17		森 川 翔 太		-	-	-	-	-	17		新 妻 一 輝		-	-	-	-	-
18	／	藤 岡 昂 希		0	0	0	0	0	18		畠 山 俊 樹		-	-	-	-	-
コーチ		廣 田 誠							コーチ		佐 藤 幸 広						
合 計				59	10	8	13	8	合 計				76	7	26	3	20

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

女子の部も開催されている平成19年度能代カップの男子2戦目は、1戦目に引き続き2試合連続の千葉県市立船橋と、今大会1試合目の宮城県明成の対戦である。

第1Q市立船橋はオールコートゾーンプレスからの1-2-2のゾーンディフェンス、明成はハーフコートのマンツーマンディフェンスで試合が始まる。両チームともディフェンスをがんばり、立ち上がりから互角の戦いが続く。残り5分のところで9対8と市立船橋が1点リード。ここからやや市立船橋がペースをつかむ。#8星野のカットインや#7遠藤の速攻などで17対10と7点リードする。これに対し明成も#6伊藤のジャンプシュートや#9佐藤琢のスリーポイントなどで入れ返す。結局第1Qは23対19と市立船橋が4点リードで終了する。

第2Qは両チームともハーフコートのマンツーマンディフェンスとなる。第2Qも双方ともディフェンスをがんばり、なかなか主導権を握れない。残り5分16秒に明成#14中川のゴール下が決まったところで、29対28と明成が逆転に成功する。ここからは再び一進一退の攻防が展開する。明成が#4安藤のジャンプシュートで得点すれば、市立船橋は#8星野のフリースローで入れ返す。終了直前に明成の#4安藤と#6伊藤が立て続けに速攻を決め、32対37と明成が5点リードで前半を終える。

第3Qも両チームともマンツーマンディフェンスで後半が始まる。立ち上がりから明成が少しずつ市立船橋を引き離していく。#4安藤から#6伊藤への鮮やかなコンビネーションプレイや#13石川のカットインが決まり、残り7分で33対43と明成が10点リードする。ここで市立船橋はタイムアウトを取るが、なかなか明成の流れを変えることができない。市立船橋が明成のディフェンスを崩せず得点できない間に、明成が着実に加点していく。市立船橋も#8星野のスリーポイントや#9小出のカットインなどで反撃するが、第3Qは44対56と明成が12点リードして終了する。

第4Qは両チームとも1-2-2のゾーンディフェンスで始まる。第4Qは一進一退の攻防が続く。市立船橋が#8星野のスリーポイントや#7遠藤のゴール下などで得点すれば、明成も#13石川や#10佐藤卓のスリーポイントで入れ返す。市立船橋はタイムアウトを取って流れを変えようとするが、なかなか点差を縮めることができない。結局59対76と明成が17点差をつけて勝利した。